

対処すべき課題

って？

各社有価証券報告書より

沖縄電力を除く電力各社の2014年度(2014年4月～2015年3月)有価証券報告書の【対処すべき課題】という項目から原発に関する記述を抜き出します。黄色枠はその中でも各社の原発に対する考え方がまとまっていると私が感じた部分です。では、北からいってみましょう。



北海道電力

安全性の確保を大前提に**泊発電所の早期発電再開を実現**し、電力の安定供給を万全なものとするとともに、営業運転復帰後にはお客さまにお約束した電気料金の値下げを実施していく。



東北電力

安全性の向上と地域の皆さまのご理解を前提として、**原子力発電所の再稼働に向けて着実に**取り組んでいく。

エネルギー資源のほとんどを海外に依存しているわが国において、原子力発電は、安全確保を大前提に、安定供給、経済効率性、さらには環境適合の観点から重要な電源であり、将来にわたって一定規模を確保していく必要がある。



東京電力

柏崎刈羽原子力発電所においては、**新規性基準適合性審査への対応**はもとより、さらなる安全性向上対策に取り組む。



中部電力

「**浜岡原子力発電所**の安全性をより一層高める取り組み」につきましては、(中略)
新規制基準を踏まえた対策を着実に実施するとともに、他社の審査状況や最新の知見を的確に把握し、先行して必要な措置を講じることで、早期の完工を目指してまいります。

特に、エネルギー資源の乏しいわが国において、地球温暖化などの課題に対処しつつ、将来にわたり安定的にエネルギーを確保していくためには、安全の確保と地域の信頼を最優先に、原子力を引き続き重要な電源として活用することが不可欠であると考えております。

北陸電力 北陸電力

シーム：
破碎帯

まずは**志賀原子力発電所**の再稼働に向けた取組みである。
敷地内シームの問題解決に向けた確に対応するとともに、
2号機の**新規制基準への適合性確認審査への対応**や安全性向上工事を確実に
進め、地域の皆さまからのご理解を得られるよう努めていく。

供給安定性、経済性に優れ、発電時にCO2を排出しないことから、
ベースロード電源として今後も引き続き重要な役割を担う志賀原子力発電所の安全強化に
徹底して取り組む

関西電力 関西電力

電力の需給安定や収支改善の鍵を握る原子力プラント4基の早期再稼働の実現に向け、
新規制基準の適合性審査に真摯に対応するとともに、
立地地域や社会のみなさまからのご理解を賜るべく、全力を尽くす。



中国電力

島根1号機の廃止を考慮すると、
島根3号機の早期運転開始はもとより、
新規原子力である**上関原子力発電所の開発**は
当社にとってこれまで以上に重要な経営課題であり、引き続き取り組んでいく。

資源の乏しい我が国において、将来にわたり電力を安定的にお届けしていくためには、
特定のエネルギー源に過度に依存することなく
各種電源の特徴を活かしながらバランスよく活用していくことが重要である。
とりわけ、原子力発電については、温室効果ガスの削減を継続的に進めていくためにも
一定の比率を維持していく必要があると考えており、
より一層安全性に優れた新規原子力発電所開発を計画的に進めていくことが重要である。



四国電力

伊方発電所3号機は、
事業経営の安定化と今後の成長において下支えとなる基幹電源であることから、
地域社会のご理解を得ながら、**極力早期の再稼働を目指していく**。



九州電力

安全の確保を大前提に、国の審査や検査にグループを挙げて対応し、
原子力発電所の日も早い再稼働を目指していく。

少しだけ感想を

このポスターシリーズでは福島事故後の2012年度、2013年度の有価証券報告書でも同じ部分に注目して紹介してきました。
この間、各社一貫して原発を動かすことに全力を注いでいます。
エネルギー基本計画では曲がりなりにも『可能な限り低減』と書いてありますが、電力会社にはその気ないみたいです。
今後もずっと重要な電源として使っていく気満々。中国電力は新規増設も諦めてません。

「ずうっと」先の未来を考えた時、それでいいのでしょうか？長期エネルギー需給見通しだってせいぜい15年後を見通してるだけ。
廃棄物について数万年のスパンを考えなければならない原発で、せめて100年後を考える人はいないのでしょうか？
今回紹介した【対処すべき課題】で廃棄物の問題を挙げている会社はゼロです。